

Vol.27
2007 春の号



Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

アジア太平洋観光交流センター(APTEC)ニュースレター

TOURISM 21

◎山田啓二・京都府知事あいさつ … p2

◎松山空港の利用実態調査報告書まとめ … p4

◎「日本の木造世界遺産観光フォーラム」を米・ロサンゼルスで開催 … p6

◎源氏物語フォーラムを開催 … p9

◎インバウンドセミナー2007 in 石川を開催 … p12

◎UNWTOニュース … p14

◎賛助会員名簿 … p15

源氏物語千年紀と世界遺産を 活かす京都府の観光戦略

京都府知事

山 田 啓 二



世界に誇る歴史、文化、自然に恵まれた京都は、国内はもとより、海外から多くの方が訪れる観光地です。京都府では、現在、2008年の源氏物語千年紀と世界遺産を活かした海外からの誘客に積極的に取り組んでいます。今回は、その一端を紹介いたします。

～源氏物語千年紀～

平成20年（2008年）は、源氏物語が誕生して千年を迎える年です。（紫式部日記の寛弘5年（1008年）11月1日の条に、源氏物語が既に宮中で読まれ評判になっていた事実の記録があります。）平成18年11月1日に、8名の有識者・文化人がよびかけ人となり、「源氏物語千年紀のよび

かけ」が行われました。このよびかけに呼応し、平成19年1月に、源氏物語にゆかりの深い京都府、京都市、宇治市や、京都商工会議所、近畿の各府県や団体などに幅広く参画いただき、「源氏物語千年紀委員会」が設立されました。源氏物語千年紀は、千年に一度の大きな機会であり、京都府としては、「源氏物語千年紀委員会」の取組を核としながら、日本の宝である源氏物語や京都の文化が世界に大きく発信できるよう、取り組んでまいります。

そのトップを切る事業として、去る2月に、日本の古典文学を生かした更なる外国人観光客誘致を図る観点から、源氏物語に焦点を当て、「源氏物語フォーラ

ム」（国土交通省主催、アジア太平洋観光交流センター企画運営）がビジット・ジャパン・キャンペーンの一環として、宇治市の源氏物語ミュージアムで開催されました。このフォーラムでは、源氏物語の研究者や旅行会社の関係者、海外プレス関係者等により、日本文学を活用した観光振興のあり方や、外国のファンを呼び込む事業の具体化について様々な意見が交わされました。

また、フォーラムと関連して、在日外国人の方々を対象とした宇治市内の源氏物語ゆかりの地を訪問するミニツアーを実施し、参加者からは、京都の歴史の奥深さや文化に、あらためて、驚きと感激の声が出ていました。

平成20年の源氏物語千年紀に

向け、今年度も国土交通省、アジア太平洋観光交流センターと協力連携し、新たな外国人観光客誘致事業に取り組めます。

このように、源氏物語は、日本国内はもとより、多くの言語に訳



源氏物語千年紀のよびかけ
京都会場（廬山寺）



源氏物語フォーラム

され、世界中で愛読されています。物語の舞台となった京都市や宇治市を訪れる外国人は、確実に日本ファンとなり、海外に日本の歴史・文化を広めることに大きく貢献しています。

～丹後天橋立大江山 国定公園の誕生～

京都府北部の丹後半島から福井県敦賀半島に至るまでの若狭湾を中心とする海岸線は、若狭湾国定公園に指定されています。

平成19年夏には、この国定公園が、丹後半島の背後に位置する世屋高原、大江山連邦などの森林景観を含めた丹後天橋立大江山国定公園と若狭湾国定公園に分割され、区域が拡大されます。

このあたりは、日本でも有数の美しさを誇る海岸線を持ち、断崖、洞門、洞窟、岩礁などの風景と白砂青松の砂浜、伊根の舟屋や琴引浜の鳴き砂などの貴重な自然や文



天橋立

化資源、日本三景で知られる天橋立など京都府北部の観光地として、オールシーズンで多くの人々が訪れています。

この天橋立を含む日本三景について教科書から記述が消えてしまったのは残念なことです。京都府としては、今一度、自然が作り出した美しい風景である日本三景を見直し、世界に向けてこの自然美の魅力を発信していきたいと考えており、天橋立の世界自然遺産登録を目指しています。

～「新・世界七不思議」に、 清水寺を選びましょう！～

文化遺産等に対する世界の関心を高めるため、偉大な建造物や文化遺産を「新・世界七不思議」として世界中からの投票で決定しようという活動が、スイスのNew 7 Wonders（新・世界七不思議財団）により繰り広げられています。日本で唯一最終候補地に残ったのは、京都「清水寺」です。

京都府には、世界文化遺産が17ヵ所あり、New 7 Wondersの活動が、これらを含め、京都を全世界へ向けて発信する絶好の機会ととらえて、清水寺への投票



清水寺・世界文化遺産



新・世界七不思議財団からのメダル授与式

を応援しています。

結果発表は、平成19年（2007年）7月7日です。この前日まで、いつでも、どなたでも以下の3つの方法により投票ができますので、多くの方々に参加いただきますようお願いいたします。

京都は、日本の心や日本文化を理解する土地として、世界に誇れるこれらの歴史、文化、自然遺産を活かしたオンリーワンの国際観光振興に今後も全力で取り組んでまいります。

投票方法はこちらから！ <http://www.new7wonders.com>
 （日本の国旗をクリックすると日本語になります。）

オンライン投票 A

**N7Wの会員となり、登録期間に
 7つの候補地を選択し、投票する
 方法**

- ① N7Wのホームページの「オンライン投票」から、投票者のEメールアドレスと7つの候補地を入力し、送信します。
- ② N7Wから返信されたメールに、必要事項を記入の上、再送信すると会員登録と投票が完了します。

オンライン投票 B

**1つの候補地のみを選んで投票
 し、証明書の発行を有料で受け
 る方法**

- ① 投票する候補地を決め、必要事項を記入します。
- ② 証明書発行代金の支払い方法（クレジットカード、PayPal）を選択します。（代金：2USD）
- ③ 支払手続が完了すると、証明書をダウンロードできるページとメールが届き、完了します。

電話投票

2つの候補地を選択し、コード番号を音声メッセージ（英語）に従って入力する方法

- ① 投票したい2つの候補地コードをN7Wのホームページで確認します。
- ② 以下の番号へ国際電話をします。候補地コードを確認したい場合は、「77」を入力します。（例：清水寺コード「11」）
 TEL 国際ダイヤル +372 541 117 38
 +423 663 90 02 99
- ③ 2つの候補地コードを入力すると完了です。

■松山空港の来訪者による経済効果は年間371億円 —空港利用の観光旅客等の実態調査報告書まとめ—

財団法人アジア太平洋観光交流センターは、この程、松山空港を利用する観光旅客等の実態調査報告書をまとめた。調査に当たっては、「航空機を利用する観光旅客等の実態調査審査委員会」（委員長は川中邦男四国運輸局企画観光部長）を設け、調査項目等の検討を行った。

この調査は、松山及び周辺地域を観光やビジネス等の目的で訪問し、松山空港（国内線及び国際線）から帰る搭乗客（自宅へ帰る日本人及び自国へ帰る外国人含む）を対象に、「どのような目的で訪問し、滞在中どれくらいの費用を使ったか等」の面接調査を空港の出発ロビー等で昨年10月に実施した。

調査項目は、旅行目的・旅行形態・活動内容・滞在中の費用内訳等。回収アンケートの総数は、585枚（日本人539枚・外国人46枚）。

本調査は、10月13日（金）、14日（土）及び15日（日）の3日間、松山空港ターミナル搭乗待合室内及び出発ロビーにおいて実施した。

【調査結果の概要】

1. 松山空港を利用する来訪者が 地元経済に及ぼす影響は年間 371億円

松山空港国内線の年間利用者は約264万人で、その内、日本人訪問者の割合は51.8%である。一方、国際線では年間利用者約5万人の内、外国人の割合は24.7%と推定される。また、国内線においても、外国人訪問者と思われる割合が、0.4%ある。

これら訪問者数と、本調査で得た結果に基づく試算により、松山空港を利用する来訪者が及ぼす経済効果は、年間、日本人で約362億円、外国人で約9億円、全体では約371億円と推定される。このうち、愛媛県に及ぼす経済効果は、

日本人で約335億円、外国人で約8億円、合計約343億円であり、松山市に及ぼす効果は、日本人で約287億円、外国人で約6億円、合計約293億円と推定できる。

また、宿泊に関する経済効果は、全体では約153億円（愛媛県では約136億円、松山市では約109億円）、食費については全体で約89億円（愛媛県では約82億円、松山市では約70億円）、ショッピングでは全体で約55億円（愛媛県では約50億円、松山市では約43億円）と推定される。

2. 高い道後温泉の訪問率

松山空港から帰途につく来訪者の旅行目的は「業務」が多い。このうち、日本人の「道後温泉」への訪問率をみれば、業務を目的とした来訪者でも40.0%に上り、さらに、観光目的では、71.4%である。一方、松山空港の利用状況別に、「道後温泉」の訪問率をみると、初めての利用者は61.1%、2回目以上の利用者は32.5%となっている（旅行目的は問わない）。

道後温泉は、特に、初めて当地を訪れる旅行者に対して大きな吸引力を持っていると言える。なお、観光目的の日本人で「しまなみ海道」の訪問率は、19.0%であった

3. 相対的に低い買い物費

一人当たりの買い物費の平均額は、日本人で7,821円、外国人で10,205円であった。男女別では、日本人の男性は6,596円、日本人の女性は11,116円。また、外国人では、男性は9,393円、女性は10,400円であった。

本調査は今回で9回目となるが、日本人の買い物費平均額では最も低い額となっている。また、外国人の平均額も2番目に低い額となっている。一方、旅行中の活動経験における「ショッピング」の経験率では日本人は4.3%と最も低い、外国人の「ショッピング」経験率は32.6%とほぼ過去の調査の平均水準35.4%となっている。訪問者の買物指向が高まれば、空港の及ぼす地元への経済効果はさらに高まるものと思われる。



審査委員会



松山空港



駐機場

添付資料：主要なアンケート結果

【主要なアンケート結果】

1. 旅行目的（上位2項目づつ）

日本人男性	①業務	62.3%	②観光	10.8%
日本人女性	①業務	34.5%	②冠婚葬祭	17.6%
外国人男性	①業務	51.7%	②観光	17.2%
外国人女性	①観光	62.5%	②友・知人訪問	12.5%
	②業務	12.5%	②冠婚葬祭	12.5%

2. 日本人居住地（上位3項目）

①関東	41.4%	②関西	27.1%	③九州	10.9%
-----	-------	-----	-------	-----	-------

3. 外国人居住地（上位3項目）

①韓国	65.2%	②ヨーロッパ	10.9%
③中国	8.7%		

4. 旅行予約形態（上位2項目）

日本人	①チケットレスで購入	33.8%
	②旅行会社で購入	32.8%
外国人	①旅行会社で購入	32.6%
	②パッケージツアー	21.7%

5. 空港へのアクセス（上位3項目）

日本人	①空港バス	38.8%	②タクシー	32.1%
	③自家用車送迎	13.5%		
外国人	①タクシー	26.1%	②団体バス	23.9%
	②自家用車送迎	23.9%		

6. 日本人の四国到着空港等（上位2項目）

①松山空港	85.7%	②高知龍馬空港	3.2%
②JR利用	3.2%		

7. 外国人の日本到着空港等（上位2項目）

①松山空港	54.3%	②成田国際空港	21.7%
-------	-------	---------	-------

8. 宿泊地別回答の割合（上位3項目）

日本人	①松山市内	72.7%	
	②東予今治地方瀬戸内海地区	4.3%	
	③東予地方西条以東地区	4.1%	
外国人	①松山市内	67.4%	②松山周辺 10.9%
	③東予地方西条以東地区	6.5%	

9. 「ビジット・ジャパン・キャンペーン」認知率

日本人	13.4%
外国人	19.6%

10. 活動内容（複数回答・上位3項目）

日本人	①仕事	58.4%	②市内見学	13.2%
	③温泉	12.1%		
外国人	①市内見学	43.5%	②仕事	41.3%
	③ショッピング	32.6%		

11. 主要観光地の訪問率（複数回答・上位3項目）

日本人	①松山市街地	46.4%	②道後温泉	40.4%
	③宇和島	6.5%		
外国人	①松山市街地	50.0%	②道後温泉	41.3%
	③宇和島	13.0%		

12. 滞在中の平均総費用（往復の交通費は含まない）

日本人	53,107円（一日当たり 16,923円）
外国人	77,159円（一日当たり 14,325円）

報告書全文は（財）アジア太平洋観光交流センターのホームページに掲載
<http://www.aptec.or.jp/>

■「日本の木造世界遺産観光フォーラム」を 米国・ロサンゼルスで開催、 ロサンゼルスよりジャーナリストを招聘

国土交通省と日本「木造の世界遺産」市町村連絡協議会（奈良市・姫路市・斑鳩町・吉野町・廿日市市で構成）は、ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）事業の一環として、去る1月18日に米国のロサンゼルス市の日米文化会館で「日本の木造世界遺産観光フォーラム」を開催した。この事業は、財団法人アジア太平洋観光交流センター（APTEC）が企画運営し、国際観光振興機構（JNTO）、日米文化会館の協力のもとで行われたもので、米国メディア、旅行エージェンツをはじめ日本の文化に関心の深い米国人や日系団体のメンバーなど約550人が参加した。

①フォーラム

フォーラムでは、冒頭に映像で日本の木造世界遺産と宮大工の技術を紹介した後、主催者挨拶を島崎有平 国土交通省 近畿運輸局長、藤原 昭 連絡協議会会長（奈良市長）が行った。



会場風景（日米文化会館）

島崎局長は「日本に8件ある木造の世界遺産の紹介などを通じ、日本の文化について理解を深めていただき、日本を訪れていただくきっかけとしていただきたい。」、また「木造の文化財を実際にご覧いただき、日本人の英知を感じとっていただくとともに、木造文化財を生み出した日本の自然環境や風土についても体験していただき

たい。」と呼びかけた。

また、藤原連絡協議会会長は、「世界遺産は『人類共通の宝』であり、歴史の間に人類が築いてきた貴重な財産である。日本の木造世界遺産は、石造の建造物の多いヨーロッパとは異なり、日本独自の『木の文化』を象徴している。『木の文化』は、日本人の精神文化そのものであり、是非、この木



島崎有平・国土交通省近畿運輸局長挨拶



藤原昭・日本「木造の世界遺産」市町村連絡協議会会長（奈良市長）挨拶



基調講演の様子



西村幸夫・東京大学大学院教授の基調講演

造の世界遺産に触れ、日本人の心に触れていただきたい。」と挨拶した。

基調講演では、世界文化遺産の登録に携わった西村幸夫東京大学大学院教授が、法隆寺、日光東照宮、厳島神社、姫路城などの建築技術、修復作業を写真や図解で紹介し、「使用木材のヒノキは耐性に優れ、伐採後五百年間は強度が増し次の五百年で元に戻るため、最低一千年は耐久性がある」などと話すと、会場から驚きの声が上がった。講演後の質疑応答では会場から多

くの質問が出された。続いて奈良市、斑鳩町、吉野町、姫路市及び廿日市市の首長らが、所在する木造世界遺産の「実物を是非見に来て」とプレゼンテーションを行い、最後に、法螺貝を吹きながら入場した「山伏」の中井教善師（吉野大峯山護持院喜蔵院住職）による「山伏の姿

と心」の講演で締めくくった。

フォーラム後に開催された交流会では、メディアや旅行エージェントなど約200人が参加し、講師や各市町の代表者に多くの質問が集中し、「日本の木造建築の素晴らしさを再認識した。」「ぜひ訪れて実物を見てみたい。」などの声が聞かれた。



中井教善師（吉野大峯山護持院喜蔵院住職）

交流会の様子

②表敬訪問

一行は、翌19日にJNTOロサンゼルス事務所を訪れ、西海岸における最近の訪日旅行市場の概況と外客誘致策について意見交換した。また米国の経済団体である日米協会と地元有力旅行メディアであるトラベル エイジ ウェスト社を訪問し、日本の木造世界遺産をPRすると共に米国人にPRするノウハウについてアドバイスを受けた。



トラベルエイジウェスト社表敬訪問

③トラベルショーに出展

1月20日及び21日はカリフォルニア州オレンジカウンティーで開催されたレジスター紙主催のトラベルショーに各国の政府観光局等と並んで出展し、約6,000人の入場者が詰め掛けるなかで「日本の木造世界遺産」の魅力のPRに務めた。



カリフォルニア州オレンジカウンティーでのトラベルショー

宮島



④アメリカ・ロサンゼルスからメディアを招聘

フォーラムのフォローアップとして、日本の木造世界遺産を直接見てもらい、木の文化と木造世界遺産の魅力を広くアメリカの旅行業者や一般読者に周知してもらうためにアメリカ・ロサンゼルスから5人のメディアを招聘した。

訪日した5人は、米西海岸を代表する旅行関係雑誌トラベルエイジ ウェスト社や中華系日刊紙等の記者で、西日本にある木造世界遺産を視察した。

一行は、3月15日から20日の6日間で、広島県廿日市市にある宮島、厳島神社をはじめ姫路市の姫路城、奈良県吉野町の金峯山寺蔵王堂、斑鳩町の法隆寺、奈良市の東大寺大仏殿、春日大社などを見て回った。

宮島の厳島神社では、自然の

吉野



春日大社

波風に耐え1300年の時空を越えて人々の手により守り受け継がれてきた伝統に驚き、鹿と共生する穏やかな風光に日本の素晴らしさを満喫した。また姫路城の壮麗さや山奥に佇む修験道の道場である金峯山寺蔵王堂の自然木を利用した建築の絶妙さに感心していた。斑鳩町の法隆寺では西院伽藍にある五重の塔が地震の多い日本でも倒れずに昔の姿を残す日本建築の技術の高さに驚嘆した。東大寺大仏殿の壮大さや春日大社神職から、なぜ春日大社の原生林が自然遺産でなく文化遺産として登録されたかという、「日本人が守り続けてきた自然と共生するという生き方」に感銘を受けて「クール」と賞賛の声をあげていた。

■源氏物語フォーラムを京都府宇治市で開催

～日本古典文学を生かした外客誘致促進～

本年2月24日、国土交通省が主催し、財団法人アジア太平洋観光交流センター（APTEC）が企画運営した「源氏物語フォーラム」が京都府宇治市において開催された。このフォーラムは、2010年に訪日外国人旅行者数を1000万人とすべく国土交通省が展開しているビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）事業の一環として、2008年の「源氏物語千年紀」を前に、古典文学を活用した観光振興のあり方やこれらに興味を抱いている外国のファンを呼び込む事業の具体化を図る目的で実施された。当日、午前中は、在住外国人を対象に、世界遺産の宇治上神社や平等院など源氏物語ゆかりの地を訪れるツアーが行われ、一般公募による人も含め約30名が参加した。参加者は、清涼な宇治の流れや平等院の優美な佇まいを見て、古都の歴史に思いを馳せ、「事前に読んだ源氏物語から思い浮かぶ景色とも一致する」など「本当に素晴らしかった」とする声が多かった。

その日の午後、宇治市が源氏物語に関する資料等を収集・展示することを目的に建設した同市内の源氏物語ミュージアムで、「源氏



宇治橋を渡るミニツアー参加者

物語フォーラム」が開催され、国内外から約80名が参加した。フォーラムは、まず主催者として近畿運輸局 坂野公治企画観光部長が「単に観光地の紹介というだけでなく、歴史的建築物や景観を守り受け継いできた日本人の心を世界に発信し、古典文学に限らず日本の文化遺産を活用した訪日客の誘致政策を考えたい」と挨拶、引き続き、京都府商工部 堀内真理子・観光政策監からの挨拶があった。

その後、源氏物語の英文による全訳を刊行したオーストラリア国

立大学名誉教授であるロイヤル・タイラー氏が「外国人の日本文学への興味と関心」と題する基調講演を行った。同氏は、「海外において、源氏物語をはじめ平家物語や松尾芭蕉の俳句など日本文学は、非常に魅力的なものとして受け入れられている。源氏物語は、一部では正当な評価を与えられていない面があるのも事実であるが、言わば教養ある英語読者の文学的展望の一部となっている。外国において古典として確立されている源氏物語のファンである世界の人々を、その舞台である京都や宇治に誘致することは、彼らをさらに日本文化のよき理解者とすることであり、他の古典文学や日本文化全体を広める上で非常に有意義である」と述べた。

引き続き、歴史街道推進協議会事務局総合プロデューサーである井戸智樹氏が基調講演を行った。同氏は、まず「歴史街道」について、事業概要の説明と大阪天満宮



等にある外国人向けの地域案内や、宇治市内における広域的道案内や散策のための和風道づくりなど各地で行われている取組を現地の写真も見せながら紹介した。その上で、「源氏物語を軸としたPRのためには、最近の観光情報が個人志向・テーマ志向を中心とするものに移行するなど外国人の『旅』の質が変化している中で、シェイクスピア生誕地エイボンに代表されるような、文化力に注目したPRを研究することが必要である。高野山はフランス人作家により『日本の四季』という書物で紹介されフランス人来訪者が増加したが、源氏物語にも、石山寺、上茂神社等等関連する場所が各地域にあり、来年の『源氏物語千年紀』を契機に広域的でかつ一体的な取組を進めてほしい」という内容の提言を行った。

タイラー氏及び井戸氏の基調講演に引き続き、同志社女子大学文学部教授 吉海直人氏をコーディネーターに、タイラー氏及び井戸氏に加え、JTB西日本国際旅行営業部営業企画室長 船積靖敬氏、英語で俳句をつくる詩人で英国BBCの台本作家であるスティーヴン・ヘンリー・ギル氏の計4名をパネリストに、「日本古典文学・源氏物語を活用した外国人観



近畿運輸局 坂野企画観光部長

光客誘客とその事業化を考える」をテーマにしたパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、まず、同志社女子大学が京都を訪れた外国人を対象に実施した源氏物語の認知度に関するアンケート調査についての報告が行われた。報告によると、京都を訪れた外国人の旅行目的は74%が「観光」、訪問回数では「初めて」が57%であり、特に京都御所は62%が「初めて」と、京都御所の海外での知名度の高さを裏付ける結果となった。源氏物語の関心度では、源氏物語を「読んだ」という人は19%、5人に1人で、源氏物語を読んではないが「知っている」人は54%と過半数を占め、特に宇治を訪れた人では「知っている」が100%という数値となり、宇治と源氏物語の関係についての認知度が高いことが報告された。

その後、各パネリストから発言



京都商工部 堀内観光政策監

があり、まず、タイラー氏は、「古典文学が世界に受け入れられていくには、まず原文が翻訳されて有名になることが重要であり、すばらしい翻訳は日本文化への興味を広げることにつながる。そのほか、学生が大学等で日本語、日本文化を専攻する場合も考えられるが、漫画や映画など原作そのものだけではなくいろいろな形で広まっていくことも重要な側面である。しかし、源氏物語については、当時の施設や場面がほとんど残っていないという現状から、外国人に正しい理解を広めていくことも重要である。」と発言した。

また、井戸氏は、「日本文学が外国人に知られていく中で、川端康成の出身地が大阪であることを知らないなど、日本の宝物を京都や大阪の人たちが自覚する、見直す必要がある。また、古典文学を活用した外国人旅行客を誘致していくためには、『文字』や『キー



基調講演風景



オーストラリア国立大学名誉教授
ロイヤル・タイラー氏



歴史街道推進協議会事務局
総合プロデューサー 井戸智樹氏

ワード』を使ったPRを考えていく必要がある」と発言した。

次にギル氏は、松尾芭蕉の奥の細道に魅せられた自身の経験や、イギリスで開催されたジャパンフェスティバルで棟方志功の版画が古事記への興味を広げた例にも触れながら、「源氏物語など日本文化は広く海外で親しまれており、姉妹都市の活動などを通して日本を『広告』することでさらに広めることができる。外国人としては香道など源氏物語の隠れた部分を経験することができるなら京都の大きな魅力である」等と述べた。

また、船積氏は、「外国人誘致のために、日本古典文学と京都を結び付けるのであれば、最近の実績で京都訪問者の多い欧米人をターゲットにすべきである欧米人の旅行形態が団体旅行から個人旅行へ、また一箇所重点型に移行している中、古典文学等テーマ性を持った商品開発の取組みが足りないのが現状である業界としても、古典文学についての理解を踏まえた商品開発を行い、外国人誘致を図っていく必要がある」等の意見を発表した。



同志社女子大学教授 吉海直人氏

これらの意見を踏まえながら、コーディネーターの吉海氏は、「日本の古典文学が翻訳されることは、外国人が日本語を通じずに源氏物語を理解できることになり、タイラー氏が源氏物語の原文に沿った英訳を行ったことは非常に意義があることである。日本古典文学を通して外国人を日本、関西に誘致するというためには、日本人も日本文化を見直し理解する機会としなければならない。特に、源氏物語は『垣間見』など正しく理解しないと間違いを起こす要素が数多くあり、外国人に広める上で重要である。外国人誘致のためには、香道や十二単の試着など源氏物語の時代を体験できるようにするという工夫も考えてみる必要がある」等の意見を述べた。



JTB西日本国際旅行営業部船積靖敬氏



スティーブン・ヘンリー・ギル氏

一方、会場からも、外国人が源氏物語を直接実感できる施設、場所が残っていないのが現実である中で、和歌をつくってみたり当時の衣装を着てみるなどの経験ができる機会があればよい、日本映画で源氏物語の雰囲気が出ている映画を観た経験があるが、英語版がなくて残念だった、などという意見が出された。

フォーラムの最後に、吉海氏は「来年は11月に『源氏物語千年紀』を迎える節目の年であり、源氏物語という日本の優れた古典文学、強いては日本文化そのものを海外へ発信していくという良い機会である。単に外国人を誘客し訪日客を増やすというだけでなく、日本文化をより深く、広く世界に発信できるよう、本日提案された内容について官民挙げた取組みを進めていきたい」と締めくくった。

以上、「源氏物語フォーラム」は、さまざまな意見、提言が出され、当初期待されたとおりの大きな成果をあげてその幕を閉めることができた。



パネルディスカッション

■インバウンドセミナー2007 in 石川開催

～広域連携による台湾顧客促進を目指して～

北陸信越運輸局が主催し、財団法人アジア太平洋観光交流センター（APTEC）が企画・運営した、石川県における広域連携による台湾誘客促進事業「インバウンドセミナー2007 in 石川」が、さる3月20日（火）に金沢市のホテル日航金沢で開かれた。セミナーは台湾からの観光客に焦点を絞り、広域連携というコンセプトの下にいかに関客を誘致促進するかを考え、議論するために催されたものである。セミナーには地元石川県からはもとより、近隣各県からも観光業界、自治体関係者など140名を越える参加となり、盛況であった。

まず主催者として、北陸信越運輸局 有野一馬局長の挨拶、続いて世界観光機関アジア太平洋センター 本田勇一郎代表の来賓挨拶の後、(株)ツーリズム・マーケティング研究所マーケティング事業部長・高松正人氏による基調講演「インバウンド観光における広域観光」がおこなわれた。この中で氏は、観光客からは日本の自治体の境界は見えなく観光プロモーションの広域連携が重要である一こと



有野一馬・北陸信越運輸局長 主催者挨拶



会場風景

を説いた。その後、運輸局からの報告「観光立国推進基本法」をはさんで、今度は台湾から送客する立場から、Travel Agent Association (Taiwan) 事務局長・許高慶氏が、チャーターのみならずこれからは定期便が求められていること、また十分で的確な観光情報の台湾側への伝達が重要である一ことを強調した。

一方、台湾観光客受入れの立場から、社団法人石川県観光連盟の小田禎彦副会長兼理事長が氏の豊富な実績・経験をもとに、和風おもてなしの心と台湾誘客のための今後のプロモーションの課題について述べた。さらに、九州という範囲でやはり広域連携を模索している九州観光推進機構・土井正隆海外誘致促進部長が、九州での様々な過去の事例も紹介しつつ、一過性におわらない観光客のニーズにあった受入れ態勢構築の必要性を訴えた。この後、各講演者に有野一馬・国土交通省北陸信越運輸局長と山口祐啓・石川県参事兼



(株)ツーリズム・マーケティング研究所
マーケティング事業部長 高松正人氏

観光交流局次長も加わり1時間半にわたるパネルディスカッションが行われ、北陸観光の魅力とその魅力を連携して台湾観光客にどう伝えていくか等について活発な議論が高松氏の司会のもとにおこなわれた。

台湾から日本への観光客数は、韓国に次ぎ第2位であり、2006年には約130万人に達している。台湾からの観光客は、すでに旅行パターンが成熟段階に達していて、リピーターも多く、その多様化し



パネルディスカッション

ているニーズにどう応え工夫をこらすかが今後の訪日観光客の維持・増加に重要である。その意味で複数の地域を跨る広域観光、連携をテーマとして行われた今回の



ファムトリップ（兼六園）

インバウンドセミナーは、誠に時宜を得たものだった。

また続けて開催された意見交換会では、翌日から主に石川県、大阪府を取材、視察する台湾からのメディア、旅行社6名も飛び入り参加し、会場に残った関係者との記念撮影もおこなわれ、和やかな会となった。この台湾からのグループは順調に取材・視察をこなし、セミナーの趣旨に沿った新聞、雑誌への観光地紹介や、今後のツアー造成を順次おこなうことを約し、23日に台湾に関西空港から帰国した。



台高慶・Trave Agent
Association(Taiwan)事務局長



小田 禎彦・(社)石川県観光連盟副会長兼理事長



土井正隆・九州観光推進機構海外誘致促進部長

ファムトリップ行程案

日 程		視 察 先
3月20日（火）		関空着、夕方石川県入り
21日（水）	8：45	ホテル日航金沢
	9：00	ひがし茶屋「懷華楼」（～9：30）
	9：45	石川県菓子文化会館（～10：30）
	10：45	金城公園・兼六園（～12：15）
	12：30	昼食「兼見御亭」（～13：15）
	13：30	金沢21世紀美術館（～14：30）
	15：00	長町武家屋敷「野村家」
	16：00	// 発
		千里浜なぎさドライブウェイ経由
22日（木）	17：30	和倉温泉「あえの風」着
	8：30	「あえの風」発
	9：00	能登島水族館（～10：00）
	10：30	加賀屋視察（～11：00）
	11：00	辻口美術館（～11：30）
	11：40	昼食（～12：30）
	12：50	和倉温泉駅発
	16：37	大阪駅着
23日（金）	17：00	ホテル日航大阪 着
	18：00	夕食、ナイトツアーに出発
	8：00	ホテル出発
	8：30	大阪城概観見学
	9：00	移動
	10：00	りんくうプレミアムアウトレット
	11：00	関空着
	12：55	関空発、帰国



UNWTO ニュース

■UNWTO「観光競争力報告書」に貢献（2007年3月8日発表）

発展途上国への機会均等を提唱 ドーハ開発ラウンドでの活動を要請

UNWTOは、有益で新しい調査プロセスとして、世界経済フォーラム（WEF）の旅行・観光競争力への関心を歓迎した。途上諸国のために革新的なサポートを提供するドーハ開発ラウンドの最終段階に参加している各国が、貧困を削減し、発展を持続させるため途上諸国の観光競争力の向上を支援することは、とても時宜になっている。

UNWTOはとりわけ下記に注目する：

- この報告書は、観光競争力の強い点と弱い点に関する有益で初の調査であり、市場における実績を補完している。
- 観光産業分野の社会経済における重要性を、全世界が理解することに対して、この報告書は貢献している。
- 観光サービスは、世界の最貧諸国にとって特に重要であると強く認識している。
- 報告書は、産業化の優位性のある利点、および貧困と発展の反抗力効果を通じた流れに対し、高い評価により生じる経済を有している国々の市場優位の明確さを証明している。

UNWTOはこのレポートを以下の点で確信している。

- 専門家による開発戦略、および経済的福祉・社会発展と相互理解を促進するために最貧諸国の観光競争力を

強化する協約に対して、長年にわたる我々の要求を強調している。

- 世界貿易機関（WTO）のドーハ開発ラウンドの枠内で活動している全ての国々による観光公約の拡大、および貧困と戦い、持続的発展を普及する観光サービスを利用する貧困諸国を援助するための具体的な方策の供給は、力強い支援となる。

国際観光は、サービスにおける全ての貿易の1/3以上を占め、経済成長を促進し、何十年も先の雇用をも供給するサービス産業分野である。その実質収益と可能性は、貧困諸国や後発開発途上国（LDCs）が実現し得る。それらの諸国では、最も高い貧困率が集中している農村部において、富と雇用を生み出す明確な可能性がある。

発展途上諸国での新興観光目的地は、ここ数年で明白な発展を遂げている。2005年、発展途上諸国で国際観光によってもたらされた外国為替収入は、2千億USDを越え、これは1990年に得た金額の4倍である。

UNWTOの見通しによると：

- 1990年から2005年の間に、発展途上国の国際観光客到着数の市場シェア

は、28.6%から40.3%にまで成長した。

- 観光は、GDPおよび小さな島嶼国の雇用の40%をも生み出し得る。
- 後発開発途上国（LDCs…50の最貧諸国—そのほとんどはアフリカに位置する）は、2000年から2005年の到着者数において成長率が48%であり、これは全世界の成長率のほぼ3倍である。
- そして、同期間において、後発開発途上国の国際観光収入は、世界の41%の成長率に比べて76%にまで増大した。

「報告書の指針は、様々な国における旅行・観光産業の発展を促進する諸相を判定する有益で戦略的なツールを提供する。その明確なランキング*は、これまで30年間の世界経済フォーラム（WEF）の全体的な競争力に関する活動を反映している。UNWTOは、全ての諸国の競争力向上を思慮している。他の産業部門に先んじてさえも、貧困を削減し、持続性を高める観光サービスの貢献に注目が向いてきており、おそらく、このプロセスから観光利益の増大につながる重要な機会があることだろう。」とUNWTO事務局長補佐のジェフリー・リブマンは語った。

さらに詳しい情報は下記まで：

UNWTO Press and Communications Department

T: (34) 91-567-8193 / (34) 91-567-8194 / F: (34) 91-567-8218

Email: comm@unwto.org

URL: <http://www.unwto.org/>

【観光競争力ランキング*】（上位30カ国・地域）

太字はアジア太平洋諸国・地域であり、日本は第25位である。

1	スイス	11	デンマーク	21	ベルギー
2	オーストリア	12	フランス	22	ポルトガル
3	ドイツ	13	オーストラリア	23	ノルウェー
4	アイスランド	14	ニュージーランド	24	ギリシャ
5	アメリカ合衆国	15	スペイン	25	日本
6	香港（中国）	16	フィンランド	26	マルタ
7	カナダ	17	スウェーデン	27	アイルランド
8	シンガポール	18	アラブ首長国連邦	28	エストニア
9	ルクセンブルグ	19	オランダ	29	バルバドス
10	イギリス	20	キプロス	30	台湾（中国）

その他のアジア諸国の順位：31位 マレーシア、42位 韓国、43位 タイ、60位 インドネシア、65位 インド、71位 中国。

◆賛助会員名簿

(株)アピサーク	(株)合通	名古屋鉄道(株)
石川県	神戸市	奈良県
(株)インターグループ	(株)神戸ポートピアホテル	奈良市
(株)エアコム	(財)国際観光サービスセンター	成田国際空港(株)
エア・ニッポン(株)	(社)国際観光日本レストラン協会	南海電気鉄道(株)
(株)エイチ・アイ・エス	(社)国際観光旅館連盟	西日本鉄道(株)
大阪ガス(株)	堺市	西日本旅客鉄道(株)
(財)大阪観光コンベンション協会	嵯峨野観光鉄道(株)	日本アジア航空(株)
大阪国際空港ターミナル(株)	サービス・ツーリズム産業労働組合連合会	(社)日本海外ツアーオペレーター協会
(社)大阪国際見本市委員会	三洋電機(株)	(社)日本観光旅館連盟
大阪市	(株)ジェイコム	日本空港ビルデング(株)
大阪商工会議所	(株)ジェイティービー	(株)日本航空インターナショナル
(財)大阪21世紀協会	JR西日本ホテルグループ	日本コンベンションサービス(株)
大阪府	(株)ジェイアール西日本コミュニケーションズ	(社)日本ホテル協会
大阪府都市開発(株)	滋賀県	(株)日本旅行
(株)カタナヤ	(株)ジャルセールス	(社)日本旅行業協会
金沢市	(株)ジャルパック	(株)農協観光
川西軽印刷(株)	住友化学工業(株)	(株)パデコ
関西空港交通(株)	住友電気工業(株)	(株)阪急交通社
関西国際空港(株)	西武鉄道(株)	阪急電鉄(株)
関西電力(株)	センコー(株)	阪神電気鉄道(株)
北大阪急行電鉄(株)	(社)全国旅行業協会	東日本旅客鉄道(株)
京都市	全日本空輸(株)	兵庫県
京都府	東海旅客鉄道(株)	三重県
近畿日本ツーリスト(株)	東京急行電鉄(株)	名鉄観光サービス(株)
近畿日本鉄道(株)	東京地下鉄(株)	(株)りそな銀行
京王電鉄(株)	東武鉄道(株)	(株)ロイヤルホテル
京成電鉄(株)	トップツアー(株)	和歌山県
京阪電気鉄道(株)	(学)トラベルジャーナル学園観光総合研究所	
京浜急行電鉄(株)	(財)中内 カコンベンション振興財団	

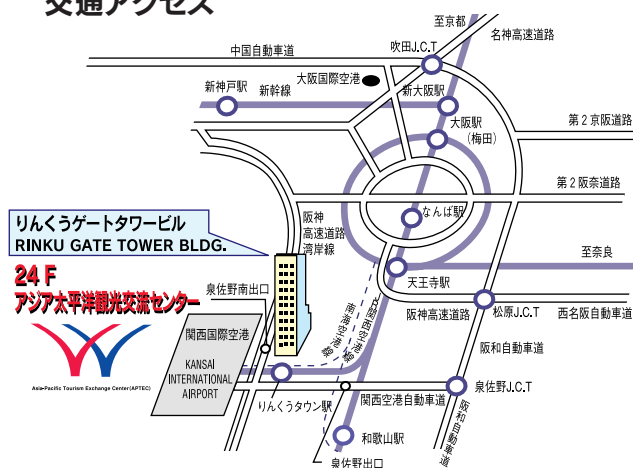
2007年3月現在（50音順）

Yokoso! JAPAN

ビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部事務局 <http://www.vjc.jp>

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-3 全日通霞が関ビル4階 電話 03-3539-2371 FAX 03-3503-0055

交通アクセス



- 電車……南海空港線、JR関西空港線 りんくうタウン駅下車
- 車………大阪市内から 阪神高速湾岸線泉佐野南出口
……………和歌山から 関西空港自動車道泉佐野出口

財団法人アジア太平洋観光交流センター

〒598-0048 大阪府泉佐野市りんくう往来北1番 りんくうゲートタワービル24階

TEL:072-460-1200 / FAX:072-460-1204

<http://www.aptec.or.jp> E-mail: info@aptec.or.jp